

ジーザックマットに関するQ&A

Q1)ジーザックマットはどちらを上によければ良いか？

A1)マット表面の粗い面を上にして育苗箱に入れてください。

参考)基本的にはマットの使用面を逆にしても問題はありませんが、肥料入りマットの場合はマットの塗布面が逆になります。

Q2)肥料入りマットには肥料はどれくらい入っていますか？

A2)マット1枚当り、成分量でチッソ・リン酸・カリを各 約1.0gマットに塗布しています。

参考)肥料は成分量で各1.0gあれば問題はありませんが、寒冷地の場合は若干少ないかも知れません。その場合は生育に応じ追肥されることをお勧めします。

PHは5～5.5です。

Q3)マットサイズが育苗箱よりかなり小さいのですが・・・

A3)有機育苗マットは従来品より縦横が約5mm小さくできています。マットを育苗箱にセットして、マット全体に水をかけると約5分で育苗箱のサイズにまで膨らみます。従来品のジーザックマットの場合も同様にしてください。

Q4)マットに反りがあるのですが、どうしたらよいでしょうか？

A4)マットを育苗箱にセットし、マットに水を掛け、マット全体が水を含むとマットの反りは約30分程度で直ります。お急ぎの場合は、マットを手で補正してください。但し、力を入れすぎるとマットが割れてしまいますので、適度の力で補正してください。

参考)万一マットが割れた場合は、育苗箱の中で割れたマットを元のようにつなぎ合わせ、その上からシャワー等で水を掛けてしばらく置き、マットが吸水し終えてから播種をしてください。根が張ってしまえば、田植時に育苗箱からマットを持ち上げてもマットは崩れません。

Q5)プール育苗、苗代育苗にも使用できますか？

A5)どちらにも使用できます。しかし、苗代育苗をされる場合は、必ず換気ができるようにしてください。昼間に換気を行わないと、保温シートの中の温度が35℃以上となり、マットの腐敗につながります。(ジーザックマットは有機物ですので、土と違い育苗条件により腐敗することがあります。)

Q6) 灌水方法はどのようにすればいいのか？

A6) マットは土の約5倍の水を保持しますので、初期灌水はマット全体が水を保持するよう、たっぷりと掛けてください。マット全体に水が吸収されていないと、発芽のバラツキの原因となります。

[播種機を使用する場合]

播種機の灌水ではマットが満水状態にならないので、必ず予備灌水をしてください。

予備灌水の方法としては

- 方法1 播種前(前日でも良い)にマットをセットした育苗箱を並べ、ホースでマット表面を満遍なく灌水し、マット表面に水を吸収させてから播種機にかけてください。マットをセットした育苗箱を積み重ねた場合は、積み重ねた育苗箱の上から水を掛けてください。
- 方法2 播種前(前日でも良い)に、あらかじめタライのような容器に水を溜め、その中にマットをセットした育苗箱を15秒から30秒程度浸けてください。マットに水を含ませてから播種機にかけてください。
- 方法3 播種前(前日でも良い)に、播種機の灌水装置を使い、マットをセットした育苗箱に水をかけ、マット表面に水を含ませてください。それから再度播種作業を行うときに播種機の灌水装置で水をかけてください。
- 方法4 播種機の灌水装置以外にもう1箇所補助灌水装置を設置します。予備灌水装置は播種機の灌水装置の手前約60cmのところに設置してください。予備灌水は、マットに水が吸収しやすくなるよう、シャワーのように水が分散するようにしてください。

注) マット全体に水が吸収してしまえば、播種機の灌水は止めてしまうか、もしくは水量を最少まで絞ってください。

[播種機を使用しない場合]

播種作業の前には、必ずマットを満水状態にしてください。

予備灌水の方法としては

- 方法1 播種前にマットをセットした育苗箱に、ホースまたはシャワーホースでマット全体に水が吸収するように、育苗箱1枚当たり、約15秒～20秒水を掛けてください。
- 方法2 あらかじめ、タライのような容器に水を溜め、マットをセットした育苗箱をその中に約30秒～1分浸けてください。マットから空気の泡が出なくなったら満水状態になっています。

参考) 満水の目安は、マット裏面にまで水が通っており、育苗箱ごと持ち上げた際、重みを感じれば満水状態です。

Q7) 灌水時に立枯防止剤(ダコレート等)をマットに撒いても良いですか？

A7) 問題はありません。ダコレート水和剤を水混ぜて灌水時に散布してください。使用法はダコレートの使用法に従ってください。

Q8) 灌水時にマットの上に水が溜まって、糶が転ぶのですが・・・

A8) 予備灌水を行わないで直接播種機で灌水しますと、マットの吸水速度より灌水水量の方が多く、マット上に水が溜まる可能性があります。そのためマット上に水が溜まった状態のまま糶が撒かれてしまい、糶の転びの原因になります。マット上に水を溜めず、マットの吸水速度を上げるためにも予備灌水は必ず行ってください。

Q9) 根切り(根止め)シートは敷いたほうが良いですか？

A9) ハウス育苗、プール育苗される場合は、根切りシートを敷いても敷かなくてもどちらでもかまいません。苗代育苗される場合は、必ず根切りシートを引いてください。マットは根張りが良いので、根が土まで入り込んで育苗箱が土から取れにくくなることがあります。

Q10) 播種量(糶の量)はどれくらいがいいですか？

A10) 目安としては播種量は80g～150gが適当です。厚蒔きは避けてください。育苗箱の中で糶が重ならないよう均一に蒔いてください。厚蒔きは糶同士の養分、光の取り合いになり、糶の重なりは根上りの原因になります。

Q11) 覆土はどれくらい撒けばよいですか？

A11) 覆土は、マットの上1cmから育苗箱のフチのすりきりまでの間に入れてください。覆土の量が少ないと根上りの原因となります。また、苗代で育苗される場合は、田の水により覆土が流出する可能性もありますので、できるだけ育苗箱のフチのすりきりまで入れられることをお勧めします。覆土の形状は問いません。

Q12) 播種作業をする時には、防塵マスクや保護眼鏡を着用しなくても大丈夫ですか？

A12) ジーザックマットは天然素材100%でできていますので、播種作業をされる時に防塵マスク保護眼鏡、長袖の作業着や保護手袋などを着用していただく必要はございません。人体に有害な物質は一切使用しておりませんので、安心・安全にご使用いただけます。

Q13) 根上りしてきたのですが、どうすればよいでしょう？

A13) 根上りしてきた時は、軽く灌水し、覆土を落ち着かせ、露出した糶が隠れるように再覆土してください。但し、厚蒔き(播種量が200g以上)により根上りした場合は、再覆土しても直らない場合があります。(根上りが進行し修正されない場合は覆土とマットの間に根層が出来マットが異常に厚くなり田植機にかからない場合があります)

Q14) 育苗期間中の水やりはどのようにしたらいいですか？

A14) 基本的には慣行と同じ水管理ですが、マット自体に保水力があり、マットの中心部には水を保持していますので、散水はマット表面が濡れる程度でかまいません。

Q15) 培土育苗の苗に比べマットの苗は草丈も低く、葉色も薄いが大丈夫ですか？

A15) ジーザックマットの特長として、徒長を抑制し根張りを良くする効果があります。養分が根の生育を優先させるため、徒長が抑制されます。ですから培土育苗の苗に比べ草丈が低く、葉色が薄くなります。念のためマット裏面の根の張り具合を確認してください。マット裏面全体に根しっかり張っていれば生長不良ではありません。定植後(田植後)には、草丈、葉色ともに培土育苗の苗と同様になります。
但し、生育状態によっては、追肥をしてください。

Q16) 元肥、追肥はどうすればよいでしょうか？

A16) ジーザックマットの肥料入りをご使用であれば元肥の必要はありません。ジーザックマット肥料なし又は有機育苗マットをご使用であれば元肥を施肥していただく必要があります。

元肥の施肥の方法は、マットの上に元肥を施肥しその上に播種をしていただくか、マットに液肥を散布してから播種してください。肥料は市販の肥料でかまいません。

追肥の方法は、生育状況に応じて、チツソ成分で育苗箱当り0.5g~1.0gを水に溶かして灌水してください。追肥は硫安もしくは市販肥料でかまいません。施肥後は肥料やけしないよう散水してください。

Q17) 苗の生育にバラツキがあるのですが？

A17) 生育のバラツキの原因には下記のようなことがあげられますが、その前にマット裏面の根の張り具合を確認してください。

[根がしっかり張っている場合]

考えられる原因としては

原因1 初期灌水時に水がマット全体に行き渡っていない。

(対策) そのままでも問題はありませんが、生育に状況により追肥をしてください。

原因2 散水により、肥料成分が水とともにマットから抜け出てしまった。

(対策) 生育に状況により追肥をしてください。

原因2 マット表面の肥料の塗布方法に問題があった。(肥料入りマットのみ)

[根の張りが悪い場合]

考えられる原因としては

原因1 マットの部分が黒化していたら、マット自体が腐敗しています。

育苗期間中の換気ができておらず、温度が35℃以上になっていたために腐敗したと考えられます。特に苗代育苗の場合にこのケースがあります。

(対策) 苗を廃棄してください。

原因2 苗が部分的に生長していない場合は、①原料のパーム繊維が塊でマット内で残り、そのため根の生長を妨げたと考えられます。②マットの中でミミズが巣を作り、根を切ってしまったと考えられます。(②は、育苗期間中に育苗箱を直接土の上に置いた場合にのみ考えられる原因です。)

(対策) 苗を廃棄してください。

Q18) 田植機にかけても大丈夫ですか？

A18) マットを田植機にかけても大丈夫です。田植機の調整も慣行の調整でかまいません。但し田植前にマットが乾燥している場合は、灌水してマットが滑りやすくしてください。

注) 1日かけて田植作業をされる場合、午後からの作業時にマットが乾燥していることがあります。また、畦(あぜ)などの傾斜地に育苗箱を置かれると、マットより水が抜けやすくなります。田植機にかけられる前には、マットの乾燥状況をご確認ください。

Q19) 田植をしたら、苗が水没してしまったが大丈夫ですか？

A19) 苗の先端が水面より上に出ていれば問題ありません。苗が完全に水に浸かっても問題はありませんが、出来れば田の水を抜いて苗の先端が出るようにしてください。

Q20) 残ったマットは来年も使えますか？

A20) ご使用いただけますが、できるだけ使い切るようにしてください。

保管される場合は、

1. 高温多湿の場所は避けてください。
2. 屋外での保管は避けてください。
3. マットを入れた箱は、パレット等の上に置き、風通しの良い場所に保管してください。

Q21) 発芽の際に育苗箱を積み重ねても問題ありませんか？

A21) 発芽の際に育苗箱を重ねて保温シートをかけて行うのは、四国地方から九州地方に多く見受けられます。ジーザックマットでも多く実施されております。(多いときは約 25 枚)
注意点は育苗中に段の積み替えを行わないと、温度が平均的に回らない事があり、発芽に大きなムラが発生する事があります。とりわけ育苗箱の中心部と周辺の温度差が熱の伝導率の違いから土の場合より長い期間の「発芽期間」を考える必要があります。

Q22)ジーザックマットは何でできており成分表はありますか？

A22)ジーザックマットは「肥料入り」「肥料なし」「有機」の3種類があります。

主原料はそれぞれ非木材繊維(パーム・竹)、木材繊維(機械パルプ)、他には竹酢液
竹炭・土で100%天然素材を使用しております。

ジーザックマットの構成成分は次のとおりです。

【 ジーザックマット「肥料入り」「肥料なし」成分表 】

原料名	含有率	状態	1枚当りに占める重量
竹パルプ	34%	紙	102g
パーム	52%	インゴット	156g
竹炭	2%	粉体	6g
竹酢液	2%	液体	6cc
倍土	10%	個体	30g

【 ジーザックマット「有機」成分表 】

原料名	含有率	状態	1枚当りに占める重量
機械パルプ	26%	インゴット	78g
パーム	60%	インゴット	180g
竹炭	2%	粉体	6g
竹酢液	2%	液体	6cc
倍土	10%	個体	30g

(注1) パーム ・ココナツヤシの外皮を粉砕しインゴットにした物

(注2) 竹パルプ ・竹を加工し紙にした物

(注3) 機械パルプ ・主に針葉樹を加工しインゴットにした物

Q23)有機マットには肥料が入っているのですか？

A23)有機マットには肥料は入っていないので、有機マットをご使用であれば元肥を
施肥していただく必要があります。

Q24) ジーザックマットの「肥料なし」と「有機」とはどのような違いがあるのですか？

又、有機としての証明書は取れるのですか？

A24) 有機マットと他のマットの違いは、使用している原料「機械パルプ」と「竹パルプ」の違いで、その加工方法が異なります。

通常、紙を作る工程で繊維を“ほぐす工程”においては「硫黄」を使用しており、竹パルプも加工時に硫黄を使用していますが、有機マットに使用される「機械パルプ」は繊維を“ほぐす”代わりに、繊維を“カット”しており硫黄を使用していません。

このことから有機マットはJAS有機適合資材の確認(アファス認証センター)を受けておりますので、有機マットをご使用のお客様から要望があれば「有機JAS適合証明書」を発行させて頂いております。